



## 対話のための道具としての Can-Do

—Can-Do は学習者のためのもの？教師のためのもの？—

コースを終えて学習者は日本語で何ができるようになるでしょうか。そして、日々の授業では、その目標に向かって、どんな活動が繰り広げられているでしょうか。

この研修では、英語教育において Can-do-statements (以下、Can-do) を利用したワークショップを数多く行っていらっしゃる長沼君主さんをお招きし、Can-do の背景、教室での応用についてご紹介いただきます。その後の活動では、Can-do の考え方を利用して、日本語教育のコース目標、各授業の目標や各課の目標を見直してみます。そして、現場への応用について考えます。

コースの見直しをしたい方、新しいコースの設計をしたい方、一緒に「学習目標」に取り組んでみませんか。

日 時: 2009 年 1 月 10 日(土) 10 時～17 時

内 容: Can-Do を用いてコースの学習目標を見直すワークショップ

- ① Can-do に対する基礎知識を得る、理解を深める
- ② Can-do を使って、コース目標を明確にし、個々の授業の学習目標をより具体化する
- ③ Can-do は、教育機関や教育課程において、どのような役割を果たすのかを考える

講 師: 長沼君主(東京外国語大学)

コーディネータ: 古川嘉子(教師研修委員会), 金田智子(同)

場 所: (財)言語文化研究所附属東京日本語学校(ナガヌマスクール)

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 16 号 26 番

参加費: 会員 4000 円, 一般 5000 円

定 員: 30 名

対 象: コース設計経験者

締 切: 12 月 19 日(金) ※締切日前に定員に達した場合は、その時点で募集を終了します。

**※簡単な事前課題があります！(次ページ参照)**



## ◆問い合わせ・申し込み◆

(社)日本語教育学会 教師研修委員会 事務局

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館2F

TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 Eメール:kyoshikenshu@nkg.or.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

「参加申込書」をダウンロードして、Eメール、FAX、郵便のいずれかの方法で上記の日本語教育学会事務局まで送付してください。Eメールの場合、タイトルを「研修応募(CanDo)」としてください。

参加申込書のダウンロードはこちらからどうぞ ⇒

[MS Word](#)

[PDF](#)

※応募書類は返却いたしません。また、この募集に関して集めた個人情報は本研修の実施以外の目的には使用いたしません。

※一度振り込まれた受講料は返金できませんので、あらかじめご了承ください。

### 事前課題(持参物)

研修では、みなさんが教えていらっしゃるコースの目標を見直し、学習者にどのように自信を与えうるものになっているかを検討します。御自身が教えているコース(一定期間のコース、あるいは科目。例:進学準備課程の作文クラス、初級総合日本語等)について、以下のことを記述し、研修当日、持参してください。A4版1枚程度にまとめてください。

1. コース名
2. 対象
3. 期間
4. コースの目標
5. 下位目標(上記4.を達成するための各課、各単元、各時間、等の目標)
6. 使用教材
7. 評価(テスト、形成的評価の方法など)

\*補足資料として、このコースのカリキュラムがわかる「シラバス」「評価のサンプル(テストなど)」や教材を持参してください。可能な範囲で結構です。